

五バク関連事業 信州大学への委託により

## 古民家実態調査を実施

9月26日、梁取区・長浜区・黒谷区で町と信州大学教育学部による「古民家実態調査」が行われました。同調査は、住民の伝統的な生活文化を知る上で重要な古民家の保全を目的に、町が信州大学に委託して平成28年度から実施しているものです。近年、生活様式の変化や老朽化により古民家の解体が進んでおり、効果的な保全策の検討が進められています。今回は、信州大学教育学部の学生らが調査対象の古民家を訪れ、建てられた年代や建材の種類、昔の生活様式などを中心に調査を行いました。今後、調査結果については町民や関係者の皆さんに報告する機会が設けられる予定です。



▲古民家調査の様子

今年ワークショップも開催

## 只見町「家庭劇場」

10月1日、本格的な舞台芸術を身近に感じてもらうことを目的に毎年開催されている「家庭劇場」が只見中学校体育館で開かれ、町内の保育所園児や小学生、町民の皆さんが参加しました。

今年は、静岡県浜松市の劇団たんぽぽが「くちぶえ番長」(原作・重松清)を披露し、自分のためだけでなく他人のために行動することの大切さを伝えました。

また、演劇後のワークショップでは、嬉しい時や怒った時など様々な感情を全身で表現する体験に参加者全員で行い、皆で身体を動かしながら元気いっぱい声を出す子どもたちの姿がとても印象的でした。



▲ワークショップにて、全身で感情表現する保育所園児

全国各地で、只見町を発信

## 「ふるさと大使」懇談会を開催

10月4日、年に一度の只見町「ふるさと大使」懇談会が役場で開催され、12名の大使と関係者が出席しました(大使は計16名で無償活動)。ふるさと大使は、只見町の魅力を全国に発信する町外在住の皆さんで、仕事の合間などを使い、多くの人に只見の良さを伝えたり、年に何度も町のイベントに足を運んだりしてくださっています。

懇談会では、大使の皆さんが一年間の活動報告を行った後、本町の振興に係る意見や情報を積極的に提供いただき、外から見た只見町について議論をする非常に貴重な時間となりました。



▲活発な意見交換が行われた「ふるさと大使懇談会」

五バク関連事業 ブナ林などの自然に触れて

## 「只見子ども芸術計画」

10月7日と17日の二回、あさひ放課後子ども教室の児童を対象とした「只見子ども芸術計画」が行われました。これは、豊かな自然を活かしてワークショップを実施するもので、今回は「ブナの森の道具屋さん」と題し、森に住む生き物が生活に使う道具を想像して作るという内容になっています。参加児童8人は、7日にたぐみ観察の森「下福井のブナ水源林」で材料となる自然素材を集め、17日に集めた素材を活かしながら道具の制作を行いました。完成作品は「たぐみ・ブナと川のミュージアム」(12月16日)や「朝日のいいもの集めちゃった市」(来年3月)にて展示される予定です。



▲只見の自然に触れながら芸術活動を行う児童(朝日小学校1～2年生)



台風19号が列島直撃

只見町でも国道路面崩落などの被害

10月12～13日、全国各地で猛威をふるった台風19号は、本町にも路面の崩落や冠水などの被害をもたらしました。

台風の接近に伴って12日の昼頃から雨風の勢いが増し、午後から夜間にかけて各警報や土砂災害警戒情報、さらには大雨特別警報（19時50分）が発表されました。全町に「避難勧告」、また、緊急の避難を促す「避難指示」が4地域（上福井、沖下、沼田原、只見田中）の118世帯239人に出され、全町で計267人の方々が各振興センターや集会施設などに避難を行いました。



▲土砂が流入した農地（小林地内）



▲伊南川の増水により崩落した国道289号（福井三日町地内）

町は台風へ備え、前日11日の17時に水防本部を設置して警戒体制を取り、12日20時30分に災害対策本部へと切り替えました。町内では、消防団や只見駐在所、消防署などの迅速な対応により被害は最小限に食い止められました（人的被害なし）。

今回の台風で国道289号路面の半面崩落（三日町地内）や農地等の冠水・土砂流入、林道の損壊、建物への浸水などの被害がありました。町では、一刻も早い復旧に向けて関係機関と協力し、作業を進めてまいりますので、二次災害等に十分注意するようお願いいたします。

※通行止めに関する情報等については、「おしらせばん」や町のホームページをご確認ください。

県道小林館の川線改良促進期同盟会 整備促進について県に要望活動

10月8日、同期成同盟会（会長・只見町長）が福島県庁を訪れ、県道「小林館の川線」の早期整備を求め、要望活動を行いました。

伊南川を挟み国道289号の対岸を通るこの県道は、国道が台風19号の被害（三日町地内）を受けた現在も迂回路として重要な役割を果たしていますが、以前より小林・亀岡間における幅員の狭さや落石の危険性、また、熊倉・小川間の雪崩発生などの問題点が指摘されています。

当日は、こうした事項に対する整備促進を井出孝利副知事に要望し、要望内容についてご理解をいただきました。



▲井出副知事（中央）に要望書を手渡し同盟会員

八十里越道路の開通を見据え 「八十里越商工会交流事業」開催

10月16日、只見町商工会と下田商工会（三条市）が主催する「八十里越交流事業」が只見町を会場に開催され、約70人の関係者が参加しました。同事業では、例年互いの地域を会場に、八十里越道路工事の進捗確認や道路開通後における広域的な経済交流の推進、両地域の振興策の検討などが行われています。

今回は、各工事現場を見学した後、講演会「八十里越と河井継之助」講師・飯塚恒夫さんや懇談会が実施されました。懇談会では、参加者から広域観光や開通時の記念イベント、製造業の交流拡大など様々な視点から意見が出され、地域間の交流をより深める機会となりました。



▲関係者による意見交換が行われた懇談会（季の郷湯ら里）